



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2024~2025 年度 テーマ

プロバスだより

第346号

2024 年 9 月 12 日発行

編集・発行 情報委員会

語り合いたい場、語れる場、学び高まる場

第 346 回例会

日 時 令和 6 年 8 月 15 日

場 所 八王子エルシィ

出席者 29 名

(会員総数 44 名 欠席 11 名 休会 4 名)

1. 開 会

土屋例会副委員長

第 346 回例会を開催します。

本日の出席者数は 29 名、出席率は 72.5%です。

2. 会長挨拶

塚本会長

今日の例会も「語り合いたい場、語れる場、学び高まる場」にしましょう。先月の総会へのご協力にお礼を申し上げると共に第 29 期がスタートをすることが出来ました。有難うございました。本日も異常気象の中でのご出席をありがとうございます。例会前の「私の健康管理」の話の中で浅川会員が話された「プロバスの例会に来て会って話し、喜びや何かを感じることもあるので出席するのです」の一言は重みがありました。



八王子プロバス会員ら 14 名が 8 月 8 日から 10 日まで青森県五所川原大会、全日本プロバス協議会第 11 回総会に参加してきました。新会長に旭川プロバスクラブの馬場康弘氏が就任し、挨拶され 2 年後には旭川にて総会を開くことを話されました。

また新理事に八王子プロバスクラブから田中信昭氏、一瀬明氏が就任しました。全日本プロバス協議会は全国 36 クラブにて構成され進めることになりました。総会后、懇親会、五所川原のねぶた祭を見学しました。八王子から参加した 14 名と他地区の方々

と一緒に、その後は観光を共にし、懇親を深めました。

第 29 期が本日より本格的にスタートします。今年度の重点事業の合唱祭、そして次年度に迎える八王子プロバス創立 30 周年関係、また年会費の妥当額についての協議等、具体的にどうするかの内容検討に今期より入っていきたいと思います。皆様方のご協力をお願いいたします。今期が皆様のご支援、ご協力で盛会に運ぶことを願っております。

3. ハッピーコイン披露

一瀬副会長からハッピーコイン 21 件の披露がありました。(7~8 ページに掲載)

4. パースデーカード贈呈

8 月生まれの久野久夫会員に池田会員手作りのパースデーカードが贈られました。

5. 卓 話

『1945 年 8 月を振り返って』のテーマのもとに、昭和 11 年生まれの塩澤勉夫会員、下山邦夫会員、昭和 10 年生まれの杉山 友一会員からお話をいただきました。

「1945 年 8 月を振り返って」 塩澤 勉夫



本日の卓話の連絡がなく例会次第に印刷されておりますが、1945 年の夏を思い出してお話いたします。

当時、私は小学校の 3 年生でありました。

6 人兄弟の 5 番目に生まれ、小学校には 5 分程で登校出来る所の常陸太田市の幸又小学校に通学していました。毎日のようにサイレンが鳴り、そのたびに防空壕にもぐりこんでいました。飛行機が上空を飛んでいる事がたびたびありま

した。親友が川遊びをしている時に飛行機が急降下し、機銃掃射を受けて命を失うという悲しいこともありました。

通学するときも単独ではなく必ず数人で集団を組んで通学していた事が当時の思い出として残っております。各所に防空壕があり、空襲警報のサイレンが鳴る度にもぐりこんでいた戦時中の思い出が残っています。

「昭和 20 年 8 月の思い出」 下山 邦夫



私は 1936 年 1 月 19 日に生まれ、出身は岡山県津山市で高校卒業まで同地で育った。終戦の玉音放送を聞いたのも同地である。

只、昭和 20 年の 8 月頃は下山一家（両親と姉妹 5 人）にとってプライベートでも多難の年だった。

・母の病態（肺結核）が思わしくない。・長女も罹患？・父が在郷軍人の訓練で広島に召し出された。などが重なっていた。国民学校の子供だけだったので途方に暮れ、親戚の農家や知り合いの家に分散して厄介になっていた。

父は広島郊外で原爆の雲を見て逃げるように帰ってきたらしい。母が逝ったのは 8 月 11 日だった。葬儀の日、翌日と空襲が無い日が続き、8 月 15 日の玉音放送を集まったご近所の大人と共に聞いたが、さっぱりわからなかった。

近所のおじさん達は誰もが言葉少なかった。どなたかが「結局負けたということか」と言って沈黙が続いたと思う。私は片隅で泣かないように我慢していたことを覚えている。

それから 2・3 か月は何かがあってもすぐに涙が出るのだった。「めそめそ、泣きべそ」と噂された。悔しいが兎も角何故かつらいのであった。

2 学期の始まる頃、水害があった。津山市が水浸しになった。枕崎台風の襲来である。家の 1 階が水没し天井裏の部屋に逃げ込んだ。軟弱な堤防の決壊により木造の橋が流され、学校や駅、病院などどこに行くにも回り道が必要だった。

津山は盆地である。美作地方の主都みたいな感じ～北に中国山脈、南に吉備高原台地があり、盆地を

網目のように川が流れ、大きな川となって瀬戸内海に注いでいる。今は橋が架けなおされ景色も一変してハイウエイである。

大空襲を免れたのはこれといった産業がなかったからであろう。農林業の集散地なのだ。高瀬舟が発達したのも理解できる故郷である。

1945 年（昭和 20 年）

戦時の日本を振り返る 杉山 友一



昭和 20 年 8 月の八王子大空襲に纏わる体験談（当時小 4）は、昨年の 8 月例会でさせて頂いておりますので、今年は当時の戦時日本を振り返っておきたいと思います。

昭和 16 年 12 月 8 日、日本海軍による真珠湾奇襲攻撃に始まった太平洋戦争は 2 年、3 年と経つうちに圧倒的なアメリカの力の前に後退に次ぐ後退を重ねていたのですが、国民にはそうした情報は知らされていませんでした。

明けて昭和 20 年、前年までの太平洋上各地での大敗北を経て、1 月 12 日、ヒ八六船団（日本の護送船団）帰らず。2 月 16 日、米艦載機が関東、東海地区に来襲。19 日、米軍、硫黄島上陸 36 日間の激戦の末玉砕、日本軍 22,000 人が犠牲、生き残り僅かに 1,000 人。この頃世界各地の日本の在外公館から、現実には補給が断たれて戦力が疲弊し、これ以上戦えないとの公電が政府の中枢に集中するが時の政府は無策。

そんな中、3 月 9 日～10 日にかけて首都東京大空襲、B29 爆撃機 300 機による夜間の無差別爆撃で死者 10 万人、罹災者 100 万人にのぼり東京の下町が全滅。3 月 29 日、米艦隊が沖縄本島に艦砲射撃、4 月 1 日遂に米軍が沖縄本島に上陸を果す。5 月 25 日皇居の一部が炎上するがこうした敗戦状況の中でもなお、一億玉砕が叫ばれて、まちのご婦人たちに竹槍を持たせて訓練を始めるなど時代の狂気は留まるどころを知らなかった。

7 月 26 日、連合国側から日本に対してポツダム宣言が発せられ、降伏要求の最終通告がなされるが、時の政府は本件無視の日々を過ごす。その間、米軍の B29 爆撃機は日本の地方の各都市へ襲い掛かる。

8月2日未明、我がまち八王子も大空襲を受け、まちの八割が焼失、当時小学校4年生の老生も何とか生き延びた次第、思い出は強烈である。

そして、そして、8月6日、広島への原子爆弾投下、3日後の8月9日、長崎への原子爆弾投下である。おまけに日本の惨状にかこつけて8月9日にはソ連が参戦し北方領土が占領されてしまう。ここまで来て日本国は、漸くポツダム宣言を受諾、8月14日敗戦の決着となり、翌15日、昭和天皇による正午の「終戦の詔書」となって全国民が敗戦の合点に至るのだ。

1945年、昭和20年の僅か8ヶ月の間に日本本土で起きた究極の残酷物語は、決して忘れてはならないし、昭和人として次代に語り継がれていかなければならないことなのである。

さて、翻って現代、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルによる中東ガサ地区侵攻の様相は、世紀を越えてなお、日本が経験した第二次大戦の悲劇の再来であり、その惨状は容易に想像がつく。恐らくこれからも世界の分断は続くであろう。人間は霊長類の長として高い知能と賢さで輝かしい文明を築き上げたが、反面、生来併せ持つ動物的、本能的な性分、傾向、その愚かさから逃れられないのが現実である。そうした人間の二面性の落差、国家を率いるリーダーたちの野生に只々ため息をつくばかりの昨今なのである。

最後に鹿児島県の知覧特攻記念館訪問の折メモしてきた「特攻の詩」をお伝えして（紙面省略）話を終わりとす。

6. 幹事報告

齊藤幹事

立川会員、浅川会員の健康に過ごす秘訣、プロバス会員であればこそのお話し有難うございました。また、本日の終戦記念日に伝えていかなければ風化してしまう実体験の貴重なお話を塩澤会員、下山会員、杉山会員が当時の体験を話して下さいました。戦争は絶対にしてはいけない。そして平和を願う強いお気持ちを感じました。これからも忘れることなく伝えていきたいテーマだと思います。有難うございました。

先週の8日に五所川原において全国大会が行われました。八王子から14名、日野5名、北九州2名の

参加を得て、21名で行動を共にしました。五所川原のプロバスクラブは会員55名中女性が22名と約半数、50～60代の若い方も多く華やかで活気がありました。立佞武多も暗くなると見事なショーの展開でした。5万人の人口全てが参加しているようなお祭りの熱気でした。地域でのみなぎる力を感じた五所川原でした。

30周年事業の会費も15,000円に決まりました。会費については高いという声も出ましたが、現時点での状況ではこれが目いっぱい価格でした。

本日のエルシィのお食事もペットボトルのお茶をやめてその金額をお料理に充てています。水はピッチャーで出ますので今暫くは我慢してください。会費の値上げに関しては、今後の動きをご報告していきたいと思います。

内山情報委員長が目のご病気で3～5ヶ月お休みとなります。データは河合・丸山両副委員長まで送ってください。本日は兩名とも欠席なので、私が写真を撮らせていただきました。

暦では立秋でも残暑が厳しい毎日が続きます。会員の皆様のご健康を第一に今後とも懇親を深めたいと思います。

7. プロバス賛歌

起立・斉唱

8. 閉会

一瀬副会長



お盆の最中で出席率が悪いのが残念ですが、本日は終戦記念日ということで平和の尊さを再確認する良いプログラムだったと思います。また五所川原での全日本プロバス協議会の総会、そのあとの旅行なども話題に上りました。

語り合うという意味で「私の健康管理」をはじめ話す会員が増える傾向にあるのは例会として大変いいことだと思います。

「プロバスが健康維持の源」だということも、「93歳でなお元気」の秘訣も力づけられるお話でした。

猛暑が続いています。お互い体調に十分気を付けてこの夏を乗り切りましょう。

私の健康管理

私の健康法



立川 富美代

健康法と改めて言われましても、この年齢になりますと、息をしていることと自分の足で歩いていることが健康法でしょうか。生まれて以来健康そのもので来ましたので、改めてその理由を考えました。

①私の体の持つ DNA ではないか。父方・母方の 4 人の祖父母が全員 95 才以上まで生きましたので、全員の年齢の合計の 4 分の 1 でも 95 才まで元気で生きることができる。

②体の根幹を作る年齢 (3 才～18 才) の生活環境

海岸の本当に波打ち際の様な所で生まれ育ちました。砂浜の焼けた夏も、冷たい冬も裸足で駆け回りました。常に海水に浸かっていました。

毎日とれとれの新鮮なお魚を食べました。戦争中は田舎に疎開、食べ物は豊富でした。

③70 代になるまでのスポーツ

私のスポーツは 3 つのボールです。中・高生の頃は中くらいのボールとして、ソフトボールに明け暮れました。

社会人では終戦後の第 1 次ダンスブームでした。良く踊りました。

家庭に入り「亭主の好きなあかえぼし」なる小さなボールのゴルフです。夫の鬼コーチで、ゴルフは余り楽しくなかったのが、家業が忙しくなったのを機に早々に止めて、大きなボールのボーリングでした。これは夜でも行けますし、相当はまりました。腕が上がり楽しくなり、高尾スターレーンのユニホームを着て、ゼッケンを背に女子リーグに出ておりました。

高齢になるまで体を動かしておりましたので、足腰は鍛えられたのでしょね。10 月には 93 才になりますが、自分の足で歩き、自分の作ったものを食べて、夕飯の時に 1 本の缶ビール。「あ・あ・わ・せ」の一言。

向こう側の神様に呼ばれるまでは、今のままなら本当の「しあわせ」と思っております。

私の健康管理

浅川 文夫



70 歳近くなると老化現象による体力の衰えが気になります。俺はいくつまで生きられるのだろう。平均寿命はまだ 10 年以上先だ。けれど 60 歳以下でその才能を惜しまれながら、亡くられる方も

沢山おられます。

どうやら人生は遺伝的要素が大きくきくようです。せめて平均寿命までは生きたい、と動かぬ身体で出来ることとして始めたのが、乾布摩擦による血行増進でした。もう一つの運動は大きな声で唄う事でした。これだけで健康寿命が伸びるはずがありません。

若くして亡くなった方の死亡原因が臓器不良と報じられています。現代の医療技術は進んでいます。臓器不良も早く見つければ治ります。私も異常の発見と治療によって、平均寿命を 10 年も過ぎてしまいました。

しかし、よく考えてみると、それは 70 年代はじめにプロバスクラブに入って、ステキな仲間に出会ったからでした。皆さんと一緒に私の第二の人生は大きく花開いたのです。皆さん本当にありがとうございました。

寄稿

全日本プロバスクラブ会長職を終わって

全日本プロバス協議会前会長

田中 信昭

2022 年 11 月、当地八王子で開催された全日本の第 10 回総会において、あろうことか会長の大役を仰せつかって以来、一瀬幹事長の適切なアレンジのおかげで、全国各地のプロバスクラブを訪問し、多くの会員の皆様とお話しする機会を得たことは、何にも代え難い喜びでありました。

近隣の日野、多摩、横浜の各クラブは元より、北は北海道旭川、南は福岡から壱岐（壱岐島が長崎県だということを知りました！）まで、その数は 15 クラブを超えたと思いますが、まだまだ足りなかったことを残念に思っています。各地の皆様方に

大変な歓待をして頂き心から感謝しておりますが、我々が訪問することによって、少しでも全国とのつながりができたのであれば、嬉しいことです。

中には月に2回例会を開催されているのに感服したり、その地域の歴史家（プロビアン）のお宅を訪問して土地の歴史を詳しく教えていただく機会を得たこともありました。今、NHK 大河ドラマで話題の石山寺で紫式部を忍ぶ機会を与えていただくなど、沢山の思い出ができました。

例会で逐一報告できなかつたのは少し残念ですが、今後も機会ある毎に皆さんにお伝えしていきたいと思えます。貴重な体験をする機会を与えていただいたことに感謝しつつ。

「全日本プロバス・第11回総会・五所川原大会と青森の旅」

持田 律三

2024年8月8日に開催される五所川原大会への出席と立佞武多の見学。加えて9～10日に青森周辺を旅する計3日間の旅程を企画したところ、八王子14名、日野5名、北九州2名、計21名の参加を得て、プロバス合同団体旅行となった。

8月8日 朝6時

羽田空港の指定場所に八王子組、日野組、九州組がそれぞれ予定通りに揃った。しかし、羽田空港では出発の予定見合わせ・・・と表示されておりいきなりのサプライズであった。原因は前日の悪天候のため機体の都合がつかないとのこと。一瞬今日は総会・大会には間に合わないとの嫌な予感が走った。

団体受付で繰り返し確認をしている内に、徐々に出発便が出始まっていることが分かり、遅れても青森へ飛ばせば良い！と開き直った。そして、不安な30分が過ぎて、出発準備ができたとの連絡が携帯に入った。結局90分遅れての出発となった。

青森空港に着いて、五所川原へ指定の観光バスで移動。当初の予定とは異なり先に昼食（寿司）を済ませ、その後、津軽三味線館や太宰治の斜陽館を見学し、大会会場の「五所川原プラザマリユウ」へ向かった。

15時～18時：大会の式典・総会に出席。すべての議案が予定通りに審議・承認されて、新理事の体制

が決議された。なお、次回の大会の開催場所は未定ということであった。



(式典・総会～五所川原プラザマリユウ)

五所川原プロバスの皆さんの手厚い歓迎・もてなしを受けて参加者一同は大感謝でした。

19時：立佞武多の最終日の開催であり、市長の挨拶の後、地元出身の吉幾三が1曲だけを披露した。そして、立佞武多の登場である。高さ23メートル、19トンもの大型ねぶたである。ビルの5～6階建て



の高さに相当する大迫力。ある。極彩色の歌舞伎の見得を切った役者の立ち姿の作品である。

(立佞武多の壮観～高さは23メートル)



大型ねぶたは3台あり、2021年作「暫」、2023年作「素戔嗚尊」（すさのおのみこと）、そして、今年の作品は歌舞伎の「閻魔」であった。毎年1台を新規に制作して前年作の2台だけを残しながら、毎年合計3台の作品だけが登場する。（青森泊。）

8月9日 朝から一路バスで3時間かけて恐山へ向かった。到着すると、どしゃ降りの雨になり恐山をひと回りすることは諦めた。山門で雨宿りと記念撮影、そして地蔵殿を参拝して、恐山の近場の地獄の状景を眺めて、むつ市へ向かった。

むつグランドホテルでの夕食会は宴席。小島馨さんの司会で和やかな酒席となった。参加者の全員にひと言スピーチをしてもらい、話題多彩の会食で盛り上がり親睦が図れた。



(ホテル前に全員集合)

8月10日 三沢航空科学館へ。ライト兄弟が初飛行した7年後(1911年)に日本で初飛行した奈良原式2号という竹製の複製飛行機が展示されていた。Jaxa 相模原と八王子子ども科学館が合体したような施設だった。そして、八食センター(八戸)で海鮮ランチに舌鼓を打ち、土産モノをたくさん買って、三沢空港からの帰路となった。

全員が無事に怪我もなく、迷子にもならず、安着できました。お疲れさまでした。

読書の記録

丸山 恭

4年ほど前からの世の中の激しい動きに流されてしまい、町の書店に行く機会がめっきり減り、パソコンに依存して本探しをする事態に陥りました。そして、ポチッとキーを押しては、翌日に自宅ポストに注文した本が届くという誠にありがたい状況に至っています。

こうした中、今年になって8月までに私が買い求めたのが以下の本です。これらの本を読みながら、あれこれと思い巡らし、日々をつつがなく過ごしております。

【NHK 大河ドラマ関連】

- 1 紫式部と藤原道長 (倉本一宏)
- 2 藤原道長の権力と欲望 紫式部の時代 (倉本一宏)
- 3 平安貴族とは何か 三つの日記で読み解く実像 (倉本一宏)
- 4 敗者たちの平安王朝【皇位継承の闇】 (倉本一宏)
- 5 藤原道長と紫式部 貴族道と女房の平安王朝 (関幸彦)
- 6 紫式部 女房達の宮廷生活 (福家俊幸)
- 7 「源氏物語」の時代を生きた女性たち (服藤早苗)
- 8 藤原彰子 (服藤早苗)
- 9 歴史読み 枕草子 清少納言の挑戦状 (赤間恵都子)
- 10 平安京の4000年 王朝社会の光と影 (隴谷寿)
- 11 謎の平安前期—桓武天皇から「源氏物語」誕生までの200年 (榎村寛之)
- 12 平安王朝と源平武士—力と血統でつかみ取る適者生存 (桃崎有一郎)
- 13 武士の起源を解きあかす—混血する古代、創発する中世 (桃崎有一郎)
- 14 平治の乱の謎を解く—頼朝が暴いた完全犯罪 (桃崎有一郎)
- 15 日本の古代とは何か—最新研究でわかった奈良時代と平安時代の実像 (有富純也)
- 16 奈良時代—律令国家の黄金期と熾烈な権力闘争 (木本好信)
- 17 乱世の天皇—観応の擾乱から応仁の乱まで (秦野裕介)
- 18 神風頼み—根拠なき楽観論に支配された歴史 (秦野裕介)

【新型コロナ、mRNA ワクチン関連】

- 19 なぜ、医師の私が命がけでWHO 脱退を呼びかけるのか? (井上正康)
- 20 新型コロナは人工物か—パンデミックとワクチンをウイルス学者が検証する (宮沢孝幸)
- 21 没落官僚—国家公務員志願者がゼロになる日 (中野雅至)
- 22 国民の違和感は9割正しい (堤未果)

- 23 NTT 法廃止で日本は滅ぶ (深田萌絵)
24 南海トラフマ M9 地震は起きない―「想定外
逃れ」で作られた超巨大地震の真実
(角田史雄、藤和彦)



- ◆五所川原への大旅行、持田団長以下 14 名無事安着
で何よりです。お疲れさまでした。 一瀬 明
◆終戦の日、生は受けていたけど勿論記憶はありません。
平和の尊さを改めて確認する次第です。
一瀬 明
◆八王子祭りの屋台とおはやし、それに夜店が出て
にぎやか！オールドボーイはハッピー。
橋本 鋼二
◆先週 長男夫婦が 1 才半の孫娘をつれて名古屋から
やって来ました。そして来春には 2 人目の孫が生ま
れるらしいです。 山本 通陽
◆今日は左膝の具合が良く歩いて来ました。
橋本 治義
◆今日は太平洋戦争の終戦記念日。昭和人として、
改めて戦争の残酷さをかみしめたいと思います。
杉山 友一
◆連日の暑さ、外出が出来ません。皆様 熱中症に
注意しましょう。 高取 和郎
◆一通りの健康診断をすませ大過なし、日常生活を
続けるべし。持病の薬は飲みつつ。 下山 邦夫
◆健康の峠の 8 月を何とか乗り切れそうでハッピー。
改めてプロバスなかまとの「おつきあい」の大切さ
をかみしめています。これからもよろしく。
馬場 征彦
◆猛暑見舞い申し上げます。せんじつ、無事に両目
の白内障の手術が終わりました。 河西 成幸
◆今年の夏は暑すぎます。昔はゴルフも冬は寒くて
嫌でしたが、夏のゴルフは気になりませんでした。
しかし最近は暑すぎて又齡のせいかわ控えています。
「君子危うきに近寄らず」ではないですが秋まで待
ちます！練習はやっておきます。 持田 律三
◆全日本プロバス協議会・五所川原大会へ参加して
まいりました。八王子がから 14 名、日野から 5 名、
北九州から 2 名、総勢 21 名の参加でした。

8 月 8 日の総会・大会の後五所川原の立佞武多の見
学で地元の吉幾三の歌を聞きました。その後 9 日・
10 日と恐山などを廻り青森の旅を楽しんで参りまし
た。各クラブと親睦も図れ、楽しかったです。

Happy!! 持田 律三

◆八王子学園八王子高等学校男子バスケット部がイ
ンターハイ (全国高等学校大会) にてベスト 16 で終
わりました。めざしたベスト 8 (エイト) には残念
ながら残れませんでした。

この結果、3 年間ベスト 16 で大会は終わりました。
応援ありがとうございました。 塚本 吉紀

◆2024 年全日本プロバス協議会第 11 回総会「五所
川原大会」に八王子プロバスクラブより 14 名参加し
ました。共にその地域の観光を参加者全員で楽しみ
ました。参加者へのお礼を申し上げるとともに懇親
を深めることができたよい機会ともなりました。

塚本 吉紀

◆五所川原大会と青森の旅は日頃の疲れを一掃して
くれました。津軽三味線、立佞武多は深く思い出に
なりそうです。世話役の皆様ありがとうございました。
岩島 寛

◆五所川原での全国大会にて、全日本プロバス会長
の任を何とか果たし終え、次期会長クラブの旭川へ
引き継ぎました。任期中のみなさまのご協力に感謝
しつつ。 田中 信昭

◆7 月の終わり。夫が体調をくずし五所川原の旅行
が危ぶまれ皆様にご心配をしていただきましたが無
事大会参加と青森の旅行ができました。素晴らしい
交流ができとてもハッピーでした。 根本 照代

◆皆様のおかげで無事五所川原の総会に出席し旅行
も全行程つつがなく遂行することができました。あ
りありがとうございました。 飯田富美子

◆12~14 日迄新潟県当間 (あてま) 高原に子供と孫
と一緒に行き、リゾート地で涼み温泉気分浸って
きました。青森にひきつづいて良い夏休みを過ごせ
ました。 飯田富美子

◆この度の五所川原プロバス全国大会への出席は私
の人生の思い出の一ページと成りました。皆様と御一
緒に出来楽しい旅行でした。幹事の持田さんには大
変お世話になり、無事に旅行出来ました事感謝申し
上げます。 岡本 宝蔵

◆五所川原大会と青森の旅 無事に行ってこられました。同行の皆様ありがとうございました。立佞武多すばらしかったです。 有泉 裕子

八王子大空襲の実相

79年前の昭和20年8月15日に戦争は無条件降伏で終わった。荒廃した国土と疲弊しきった国民が残された。8月例会でも当時を知る3人の会員から生々しい往時の実態が語られた。

八王子市はこの敗戦の日からわずか15日前に米空軍の大空襲を受け、壊滅的な被害を受けた。ここに改めてその被害の実態について記録と記憶を記しておきたい。

1945年8月1日の夜半から2日の未明にかけて行われた空襲により、八王子市街地の90%が焼失。焼夷弾の投下による攻撃は万町の東洋製麦や長房の陸軍幼年学校から始まり、次いで市街地を押し包むように行われた。市役所、八王子駅、学校などの公共施設、商店街や寺院・民家などが灰燼に帰した。さらに市街地に止まらず周辺地域も爆撃を受け多数の死傷者を出した。

被害者は死者数約450人、負傷者数は約2,000人(内重傷者約500人)に上った。さらに家屋の焼失は約14,000戸、罹災者数は約77,000人、焼失面積は約3平方キロに及んだ。

八王子空襲は、事前の宣伝ビラなどによって襲来日の予告があり、関係機関や市民は事前の対応もしていた。消防車なども近隣から動員され市内の要所に配備されていた。しかし、実際には空襲の初期の段階で送水施設が破壊されたため、消火活動はほとんどできなかつたとされている。一夜が明けて、余燼くすぶる市街地には焼け焦げた消防車が無残な姿を曝していた。

予告によって、事前に避難する市民もあったが防空壕に籠り難を逃れようとした市民もあり、劫火の犠牲になった一家もあったなど、悲惨な話が残されている。

一面焼け野原になった市街地には、点々と商家の白壁の蔵が目についた。高尾の山並みが一望できる景観には子供心に不思議さと違和感を覚えた。火災からは焼け残った蔵も、数日後に火が出るなど、市民の苦難はいつまでも続いた。(情報・河合)

私の一句(八月の句会から)

河合 和郎

森羅万象を作品に仕立ててしまうのが俳句。その句が作品となるか単なる十七文字に終わるかは、作者の力量と観察の深さにある。

太陽の怒るがごとき大暑かな 飯田富美子

今年の暑さは異常だった。「太陽が怒る」とは作者の感性の受け止め。太陽はいったい何を怒っているのだろうか。鑑賞しながら考えたい。

かなかなの音色年々身に染みて 馬場征彦

かなかな(蝸)の鳴く音は秋に相応しい雰囲気を持っている。作者は人生の秋の深まりと蝸の鳴く音を重ね、年々その憂い深めている。

西向きの下宿三畳秋暖簾 田中 信昭

「窓の下には神田川 三畳一間の 小さな下宿」と南こうせつは歌う。あの頃は貧しくとも夢多き時代だった。遠い若き日々への追憶のメロデー。

宵闇にゆーらりゆらり立佞武多 池田ときえ

全国大会への参加に合わせて立佞武多を見学した作者。目にした驚きの実感を一句に。中七の措辞で天を突くような立佞武多の威容が描けた。

鈴懸の並木途絶へし無縁坂 下山 邦夫

「鈴懸」は別名プラタナスとも呼ばれる高木で街路樹や公園の緑陰樹として植栽。作者は何を思い、何を偲んで並木道を歩いていたのだろうか。

何処からか崩す思案の冷奴 野口 浩平

こういう句が大真面目で作れる俳句脳がうらやましい。冷奴はどこから食べても冷奴。「ちょっと待てよ」と作品に仕立てるのが俳句の醍醐味。

蟬生れて眩しき日々を鳴き尽くす 河合 和郎

蟬の幼虫は地中で数年から十数過ごした後、成虫となり地上に姿を現す。成虫の寿命は平均で10日余り。夏の眩しさの中で精いっぱい鳴き尽くす。

編集後記

今月号は、昭和20年8月の思い出等の卓話、全日本プロバス総会五所川原大会と青森の旅の記録、そして長命会員の健康術のお話を主に収録・編集しました。

情報委員会

